

## —若手技術者のコーナー—

## これまでの仕事を振り返って

## 1. はじめに

私は平成20年度に土木技術職として、倉敷市に入庁した。平成20年度からの4年間、街路課で都市計画道路の建設に携わり、平成24年度からの5年間下水道建設課にて、下水管きょ建設、平成29年度からの1年10ヵ月、日本下水道事業団へ出向し、岡山県内の各自治体における下水処理場の耐震化工事及び長寿命化工事に携わった。平成30年度の2ヵ月は倉敷市に戻り、真備支所産業課にて、災害復旧工事の積算業務等に携わった。平成31年度からは、下水経営計画課にて、事業計画及び雨水管理総合計画等の計画策定業務に携わっている。本文では思い出の強い出向時の業務で感じたこと及び下水道部の土木技術職としての今後の展望について紹介する。

## 2. これまでの仕事について

## 1) 南相馬市への出向

下水道建設課に所属していた平成24年度に東日本大震災復興のために南相馬市に出向し、集団移転業務に携わった。具体的には、移転先の造成工事の施工監理及び積算業務を行った。当時震災から2年が経ち、復興を目に見える形で進めていく必要があったため、膨大な量の発注業務をメ切的に行った。そのような中、南相馬市の方々から感謝を感じられる瞬間があり、公務員の醍醐味である「ひとのためになる仕事」として、とても充実した期間であった。

## 2) 日本下水道事業団への出向

入庁して10年目で、日本下水道事業団への出向を命ぜられた。出向先の職場が隣の岡山市であったため、人生で初めての電車通勤を経験した。朝通勤ラッシュ時の満員電車には、はじめ戸惑いを感じたが、半年程経つと、電車で本を読んだり快適な空間へと変わった。業務の担当が岡山県内の広範囲に渡っていたため、移動距離が長く、繁忙期では業務の半分が移動時間ということもあった。また、工事については、処理場を稼働させながらの工事が主であったため、機械工事、電気工事及び各自治体の担

当者と調整しながら、工事を進めていった。そのような中、現在でも各自治体担当者との交流があり、下水道に関して連絡を取り合う関係になっており、人脈が広がり、知見が高まった出向期間であった。

## 3. おわりに

現在市民の皆様への下水道への理解を得るために、下水道部にて「下水道広報プロジェクト」を設置し、下水道の広報活動を行っている。広報活動の1つとして、イベントでマンホールの蓋にてホットケーキを焼く「マンホールホットケーキ」を行っており、ホットケーキの焼けるまでの時間に、下水道に関するクイズを行い市民の皆様幅広く下水道を知ってもらう取り組みを行うとともに、おいしいホットケーキを頂いてもらう活動を行っている。利用者である市民の皆様へ下水道を知ってもらうこのような取り組みを継続的に行うことが大事であると考えている。

最後に、私の将来の展望として、安心・安全な生活を支える下水道を提供するために、個人の技術的知見を高め、市民の方に納得して頂けるよう自己研鑽を行う必要があると考えており、今年度、技術士（上下水道部門）の資格に挑戦する予定である。また、技術士等資格を取得し活用することで、市民の皆様に分かりやすい説明ができるよう自己研鑽していきたいと考えている。



下水道広報活動（マンホールホットケーキ）の様子  
（真ん中が筆者）

（倉敷市 環境リサイクル局 下水道部 下水経営計画課  
三宅 輝彰）